

記事の見出しを考える児童

11月20日午後、静岡市清水区の市立清水飯田小



Newspaper in Education

海洋ごみ理解深く

静岡・清水飯田小 新聞活用し公開授業

NIE（教育に新聞を）実践指定校の静岡市立清水飯田小（同市清水区）で20日、新聞記事を使った総合学習の公開授業が行われた。5年生の児童が「新

聞を活用して環境問題について考えよう！」をテーマに海洋プラスチックごみの問題点について学んだ。

子どもたちは海洋ごみの影響で死んだジュ

みの影響で死んだジュゴンの記事や、マイクロプラスチックの危険性を説いた社説などを読み、気になるところを3人一組で共有。「ほかのグループに読んでみたいと思わせる見出し」をつけ、記事の理解を深めた。

小川訓靖教諭が採取し、ビーカーに分けた三保海岸の砂に水を加えると、緑や赤色のプラスチック片が浮かんだ。子どもたちは「すごい」と驚く声を上げ、海洋ごみが身近な問題となっていることを実感した。

小川教諭は「世界の話題をあらゆる角度から知ることができるの

が新聞の良さ。子どもたちとにかくに自分ごととして捉えてもらえるかが大切」と話した。

（清水支局・石岡美来）

2019年11月21日朝刊

①この記事で取り上げた授業は「何の問題点」について学んだものか。
記事の中から見つけ、10字で書きなさい。

[illegible]

②記事の授業の中で、子どもたちが工夫した見出しはどのようなものか。それが書かれている文の右側に線を引きなさい。

③記事の最後の部分に、小川教諭(先生)は「子どもたちにいかに自分ごととして捉(とら)えてもらえるかが大切と話した」と書かれている。自分ごととして捉(とら)えてもらうために、この授業で小川教諭の工夫した活動が書かれている部分を四角(□)でかこみなさい。

④記事には、このような問題を知るときの「新聞の良さ」が紹介されている。その良さを25字以内で書きなさい(句読点を含む)。

[illegible]

←25字

名前 組 年